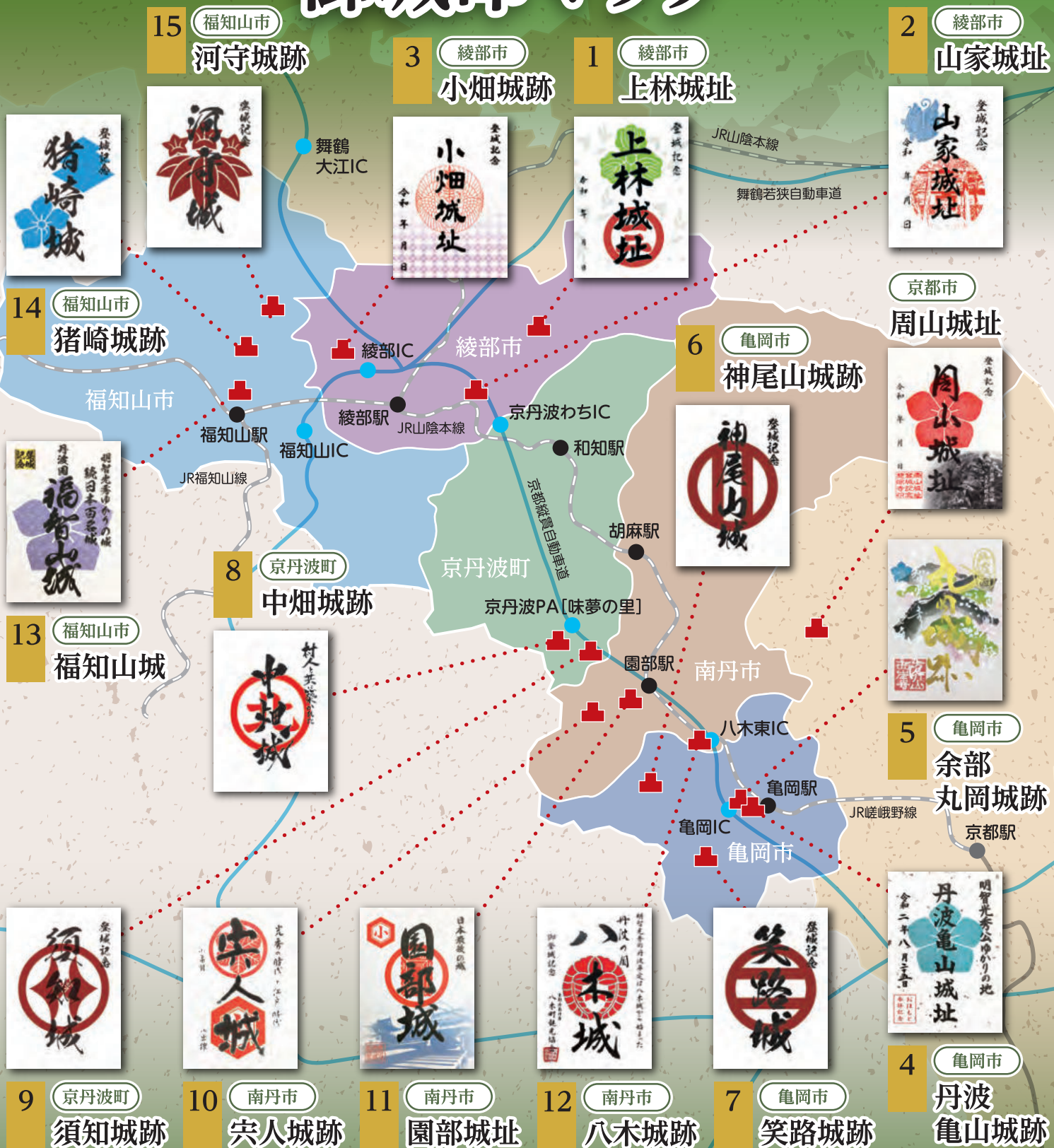


森の京都

御城印めぐり

御城印マップ



森の京都エリアの城・城跡



1 あやべ観光案内所
御城印はこちらで購入できます



2 あやべ観光案内所
御城印はこちらで購入できます



3 あやべ観光案内所
御城印はこちらで購入できます



4 万祥殿(大本教敷地内)
御城印はこちらで購入できます

綾部市 上林城址

上林城は赤井氏の一族である上林氏の居城として知られています。上林谷は丹波から丹後に通じる街道を押さえる要衝で、上林氏は代々、16世紀後半まで城主としてこの地を治めていましたが、1575年(天正3年)の織田信長の家臣・明智光秀による丹波侵襲により勢力を失っていきます。上林氏一派は宇治で茶業を始め、宇治の茶舗上林家として利休大茶人に重用され幕府の御用を務めた。



綾部市 山家城址

山家城は羽柴秀吉の家臣である谷衛友が「本能寺の変」後に築いた城です。現在は山家城址公園として模擬櫓門が建てられており、門の2階が「山家資料館」になっています。遺構としては公園の西側に空堀が残っています。また付近には谷氏の祖先を奉った谷雲神社があります。「資料館の見学は山家郷土歴史資料館委員会事務局TEL:0773-46-0345に3日前までに要予約、1名から受付可、無料」



綾部市 小畑城跡

小畑城は丹波多紀郡(現篠山市)の波々伯部(ほうかべ)氏の支流にあたる波々伯部弾正の居城と伝わる城です。丹波守護代・内藤宗勝が重臣の波々伯部一族を派遣したと考えられています。波々伯部氏は1579年(天正7年)の明智光秀の丹波攻めにより滅亡したとされます。現在城跡には土塁や堀切などの遺構を確認することができます。「マイカー利用の場合はふもとの高瀬寺の駐車場をご利用ください」



亀岡市 丹波亀山城跡

丹波亀山城は織田信長の命を受けた明智光秀によって、丹波統治の拠点として築かれた城です。「本能寺の変」の際に、光秀が出陣したのもこの城でした。山陰道の入口にあたる要衝であるため、豊臣秀吉や徳川家康にも重要拠点として活用されました。家康は譜代大名である岡部長盛を封じさせ、さらに天下普請により西国大名に命じ世世城郭として修築させています。このときには築城の名手と謳われる藤堂高虎が縄張りを担当しました。現在、遺構はほとんど残っていません。天守台の石垣も積み直されたものです。



5 西岸寺
御城印はこちらで購入できます



6 かもめまのMart(JR亀岡駅)
御城印はこちらで購入できます



7 かもめまのMart(JR亀岡駅)
御城印はこちらで購入できます



8 京丹波町観光協会
御城印はこちらで購入できます

亀岡市 余部丸岡城跡

余部丸岡城は古くからの地域の軍事拠点。八上城主・波多野氏に従った福井因幡守貞政が城主をつとめた城です。織田信長の命を受け丹波攻めに乗り出した明智光秀は1577年(天正5年)に降伏を勧告しますが、福井氏はこれを拒んだため、翌年光秀によって攻められ、福井氏一族は滅亡しました。その後、光秀が拠点として使用したとも伝えられています。現在城址の一部は西岸寺の境内となっており、城址碑と案内板が建てられています。



亀岡市 神尾山城跡

神尾山城は波多野秀長の子で、波多野福通の弟である柳本賢治の居城として知られています。その後、明智光秀による丹波攻めの際には八上城攻めの中継基地として使われました。現在、城址では土塁や石垣などの遺構を確認することができます。「参道入口の宮川区公民館に無料駐車場有り(※森の京都HPから事前予約要)駐車場から主郭曲輪まで徒歩約60分」



亀岡市 笑路城跡

笑路城は長沢重綱の居城として知られています。丹波街道を見下ろす位置にある、丹波・摂津の「境目の城」でした。織田信長の家臣である明智光秀の丹波攻めの際に、重綱は法善山城麓の「明智岩り」で光秀に正面して降伏しました。重綱は以後、明智氏に仕えていましたが「山崎の合戦」で討死しています。現在城址には土塁や石積みなどの遺構が確認できます。また埋め戻されていますが、発掘調査の結果、天守台などの遺構も発見されています。近くにある梅相院は長沢氏の菩提寺で、元は長福寺と呼ばれていました。



京丹波町 中畑城跡

中畑城の築城年代は不明ですが、那須と一ノ末裔とされる北土ノ正(きたいちののかみ)によって築かれたと考えられています。南北朝時代、北道氏(みちうじ)の代に本格的な山城として改修され、京都と丹後、西上方面を結ぶ交通の要所として利用されたようです。江戸時代に入り、1619年(元和5年)に小出吉親が園部城を築くと、1637年(寛永14年)北万壽寺宗(きたばんかくとくむね)の代に廃城となりました。現在城址は曲輪跡のほか虎口や堀切などが確認できるよう整備されており、本丸跡には石牌や案内板が建てられています。



9 京丹波町観光協会
御城印はこちらで購入できます



10 犬石書店(南丹市内)
御城印はこちらで購入できます



11 南丹市立文化博物館
御城印はこちらで購入できます



12 八木町内・取扱店
御城印はこちらで購入できます

京丹波町 須知城跡

須知城はこの地の有力国人、須知氏の居城です。1579年(天正7年)、織田信長の命を受けた明智光秀による丹波侵襲では、当初は織田方として参戦しますが、途中で離反したために光秀の軍勢に攻められ落城し、須知氏は滅亡しました。その後は明智氏の丹波支配の拠点として利用されました。現在城址には石垣や堀切などの遺構が良好に保存されています。山麓の玉雲寺は須知出羽守慶吉が開山した寺で、落城の際に兵火で焼失したものを光秀が再興しました。また付近にある名勝「琴瀧」も観光スポットとして有名です。



南丹市 穴人城跡

穴人城は小富氏によって築かれたと伝わる城です。山麓の居館(穴人館)に対する詰城です。小富氏は丹波守護・細川氏の被官でしたが、戦国時代は波多野氏に属し、1575年(天正3年)6月に織田信長の命を受けた明智光秀が丹波へ侵襲すると、いち早く降伏して光秀の案内役をつとめて所領を安堵されました。江戸時代に入り、1619年(元和5年)に園部に入封した小出吉親は園部城を築くまでの間、この城に逗留したとされます。小富氏は藩士として小出氏に仕えました。現在城址には土塁や堀切などの遺構を確認することができます。



南丹市 園部城址

園部城は日本の城郭史で最後の建築物として知られています。当初、小出吉親が築いた城は徳川幕府の制度上では陣屋という扱いになったため、園部陣屋と呼ばれていました。幕末になって京の治安が悪化したことに備えるため改修が認められ、1868年(慶応4年)から普請がはじまり、翌1869年(明治2年)に完成した際にようやく園部城と呼ばれるようになりました。現在は京都府立園部高等学校の敷地となり、糺倉、城門の櫓門(高校の校門)、番所、太鼓櫓(八木町の安楽寺に移築)など一部の建物が現存しています。



南丹市 八木城跡

八木城は丹波守護細川氏の守護代をつとめた内藤氏の居城です。黒井城、八上城とならぶ丹波国三大城郭のひとつで、キリシタンとして知られる内藤ジョアン(内藤如安)ゆかりの城としても有名です。1579年(天正7年)に織田信長に丹波攻めを命じられた明智光秀が落城させました。その後、光秀により改修され、亀山城(亀岡城)を築城して以降はその支城として存続しました。北麓にある東雲寺が八木城主の居館跡と伝えられています。



13 天守1階チケット売り場
御城印はこちらで購入できます



14 福知山観光協会
御城印はこちらで購入できます



15 福知山観光協会
御城印はこちらで購入できます

福知山市 福知山城

福知山城は丹波国を平定した明智光秀によって築かれた城です(正確にはもともとあった堀見氏の横山城を石垣づくりの城として改修)。城主は光秀の娘婿である明智秀満がつとめました。現在は福知山城公園として整備されています。天守は1985年(昭和60年)に復元されたもので、福知山市郷土資料館の施設となっています。福知山城は盆地の真ん中にある小高い丘の上に建っているため街のどこからでもよく見えますし、JR福知山線の列車内から見ることもできます。



福知山市 猪崎城跡

猪崎城は堀見筑前守利勝によって築かれた城です。その後、利勝の子の堀見播磨守幸利が城主となりましたが、1579年(天正7年)に明智光秀が率いる丹波平定軍が侵襲すると、家利は城に火を放ち、討死したと伝わっています。現在城址は「三段池公園」内にある「城山公園」として整備されており、土塁や堀切などの遺構が良好に保存されています。なお本丸跡からは福知山城を眼下に見ることができます。登城口に城址碑と案内板が設置されています。



福知山市 河守城跡

河守城は新治(にんぱり)藏之佐利照によって築かれたと伝わる城です。以後7代、約200年にわたる新治氏の居城でした。その後、物部城主・上原氏に滅ぼされたあとは上原福寿軒が城主をつとめています。廃城時期は不明ですが、明智光秀が細川幽斎・忠興らとともに、福知山城から天橋立へ向かう際にこの城に立ち寄ったという言い伝えがあります。現在城址には土塁や切岸の遺構が良好に保存されており、登城口は新治氏の菩提寺でもある浄心寺の裏側にあります。



森の京都
御城印めぐりホームページ

最新情報ははこちら

<https://morinokyo.jp/>

一般社団法人 森の京都地域振興社
[森の京都DMO]

T621-0804 京都府亀岡市追分町谷筋25番地30
TEL 0771-22-9800